

1	名古屋	上社中学校	カトウ テルオ 名前 加藤 輝夫
分科会番号	3	分科会名	社会科教育（中学校）

研究題目

知的好奇心を高め、主体的に学び続けることのできる生徒の育成

研究要項

1 研究のねらい

本校の生徒は学習意欲が高く、基本的学習事項についてはよく理解している。しかし、事前に行ったアンケートでは「自分で考えて自分の意見を記述し、表現したことを級友に発表できましたか」という設問に対して、どちらかというところ「はい」、どちらかというところ「いいえ」、「いいえ」と回答した生徒は約 63%であった。また、「指示された資料に加えて、自分で調べましたか」という設問に対してどちらかというところ「はい」、どちらかというところ「いいえ」、「いいえ」と回答した生徒は約 78%であった。この結果から、実際に授業で学んだことを深く追究して考え、表現したり、他者の意見を聴き、自分の意見に反映させたりすることができる生徒は多くないと言える。知的好奇心の高い生徒は社会的事象に興味や関心をもち、授業で学んだ内容以外について学びたいという気持ちを抱く傾向にある。さらに、生徒がもっと知りたい、調べたいという意欲をもって能動的に社会的事象を深く追究していくことで、見識や視野を広げていくことができると考える。したがって、社会的事象を能動的に深く追究し、追究したことを基に自分の考えを表現したり、仲間と伝え合ったりすることで知的好奇心を高め、他者の意見を聴いて自分の意見に反映させることを継続していくことで、主体的に学び続けることのできる生徒を育成したいと考えた。

2 研究を進めるにあたって

目指す生徒像に迫るために、以下の(1)～(3)の手立てを取り入れる。

(1) 視覚的教材・資料・ICT の活用

単元を貫く学習課題を設定し、知的好奇心をもたせる導入方法を工夫する。地図・写真など視覚的に捉えやすい教材・資料・タブレット端末を活用し、社会的事象の特色や意味などについて関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現させ、課題に対する追究意欲を高めさせる。

(2) 知的好奇心を高めるための異なる視点同士の話し合い活動

学習課題に対して、生徒自身が互いに教え合い、仲間と近い距離でお互いに取り組み、考えを深めることで、より活発に意見交換させる。さらに、席の近い生徒同士で学習課題に対して、お互いに確認し合い、他者の考えや意見を聴くようにさせる。さらにグループ学習を導入し、学習課題に対して、グループ内で役割分担をして話し合いをさせた後にディベートを行う。最後に、生徒自身が学習の成果を実感できるように発表の場を設定し、生徒自身の学びが深まるようにする。

(3) 主体的に学び続けるための「学びのあしあと」への振り返り

課題に対して追究してきた学習の成果を実感できるように「学びのあしあと」という振り返りシートを活用する。単元ごとに、授業で学習したことを、学習課題と関連付け、さらに今まで学習してきたことを踏まえて自分の言葉で説明させていくことで、その単元の理解度・自らの成長度、次への目標や課題が見付かったのか、単元から学んだこと、今後の生活に生かしたいことや考えていきたいことを生徒自身に書かせて学びの振り返りをさせ、学習の成果を実感させ、主体的に学び続けることができるようにする。

3 1 学期実践の概要

(1) 実践単元 幕藩体制の確立と鎖国 「江戸幕府の政策」(6時間完了)

(2) 実践の対象 2年生

(3) 実践のねらい

- ・江戸幕府にとって最も重要だった政策は何か、武士の取り締まり、農民の取り締まり、外国とのつながりの三つの視点を基に考えることを通して、幕府は権力を維持するための様々な政策をつくり、武士を中心とする、政治体制の安定を図っていったことを捉えることができる。
- ・級友の発表を聴き、自分の考えを深め、新しい考え方を得ようとすることができる。

(4) 学習過程

目指す生徒像に迫るために、学習過程を3段階に設定する。

<p>捉える段階 (学習課題に対する三つの判断軸) 社会的事象に関心を持ち、学習課題を捉える段階</p> <p>追究する段階 (ディベート) 学習課題に対する自分の考えを構築し、生徒同士の話し合いを通じて学習課題を追究する段階</p> <p>深める段階 (「学びのあしあと」振り返りシート) 学習活動を振り返り、自らの考えを深める段階</p>
--

4 実践の様子

単元の導入部分で「約260年間続いた江戸幕府にとって重要な政策は何か」という学習課題を提示し、支配者、被支配者、外交の三つの判断軸を基に考える学習活動に取り組んだ。三つの判断軸の中で、生徒たちは学習課題に対して、どの視点が最もふさわしいのかを選択し、江戸時代の支配者である武士への取り締まり、被支配者である農民への取り締まり、外交として外国とのつながりの三つの視点から、学習課題についての意見文を記述した【資料1】。生徒たちは、授業で学んだことを基に自分が選んだ視点に対する意見を書いていた生徒が多かった。生徒の中には意見文を書く前に自分の頭の中のイメージを整理するために三つの視点のキーワードを図示して取り組んだり、1年生での既習内容に関わらせて記述したりしていた。

キリスト教の教えは、人はみな平等という江戸幕府の幕藩体制のとうがうもの
 → 取れまらないうキリシタの覆て反乱が起る
 実際、天草四郎を大将にした島原の乱が取れまら前に起る
 取れまら：船路

鎖国してなかつたら、江戸幕府の力が弱くなり 260年間も続かなかつた
 → 実際、開国してたら、日本に不利な条約が結ばれ、内戦が起る また、災害や凶作など
 幕府や藩は、社会不安を解決できなかつた → 侯藩を目撃動揺が高まり、政權を朝廷に返すこと

【資料1 ワークシートへの記述】

次時では、生徒はディベートに向けて個人でロイロノートを活用し、発表資料を作成した【資料2】。生徒たちは写真やイラスト、グラフなどを入れ、ディベートに向けた説得力のある発表資料をつくることができていた。その後、生徒が記述した意見文を基に、三つの視点をそれぞれ3人ずつ入れた、9人のグループを複数、編成した。グループ内の全員が必ず話す機会を得るために、それぞれのグループの中で武士への取り締まり、農民への取り締まり、外国とのつながりの三つの視点に対する役割分担を決めた。ディベートにおけるグループ内での役割として、三つの視点それぞれで立論、反論、まとめを話す生徒を決め、ディベートに向けて準備を進めていった。グループ内の同じ視点同士でディベートの方向性を統一できるよう情報交換させ、生徒は想定問答として自分の視点以外の主張に対する反論を二つの視点から考えていった。



【資料2 ロイロノートで発表資料を作成している様子】

本時ではディベートの流れ【資料3】とディベートのルールを確認した後に、三つの視点の生徒たちがそれぞれ向き合うことができるように各座席を移動させ、九つの机が三角形になるようなグループにさせた。ディベートでは、それぞれの持ち時間の1分半で生徒にディベートをさせ、その後作戦タイムを2分間設け、次のディベートに向けて準備をさせた。生徒たちは発表資料を活用しながら、より説得力のあるディベートになるようにグループ内で自分の意見を伝えていた【資料4】。ディベート後、同じグループ内で、それぞれの視点についての立論、反論、まとめを終えてグループ内でのディベートにおける、どの視点が優勢だったのか、個人での考えを意見交換させ、グループで共有させた(資料5)。ディベートで農民の取り締まりの視点の意見が優勢で、最も説得力があった、と共有しているグループが見られた。その後、グループで共有した意見を代表者に発表させ、全体に共有させた(資料6)。三つの政策の内、どれか一つ欠けるだけでも江戸幕府の混乱や滅亡を招くことになることをディベートの中で気付けた、しっかり考えて作られた政策によって江戸幕府は約260年間も続いたと考えた、と全体で意見を共有できた。生徒の中には「いろいろな視点の人の意見を聞くと、なるほど心が変わった場面がいくつもあった」や「予想外の反論や主張をたくさん聞くことで、違う視点から考えることができたので、学習の幅が広がり、農民以外にも興味をもてた」などディベートを通して、

自分たちの考えを深めることができていた。

2-1ディベートの流れ	
1	武士の取り締まり側の立論…1分半
2	農民の取り締まり側の立論…1分半
3	外国とのつながり側の立論…1分半
4	作戦タイム①…2分
5	武士の取り締まり側の反論…1分半
6	農民の取り締まり側の反論…1分半
7	外国とのつながり側の反論…1分半
8	作戦タイム②…2分
9	武士の取り締まり側のまとめ…1分半
10	農民の取り締まり側のまとめ…1分半
11	外国とのつながり側のまとめ…1分半
12	判定・意見交換…2分
↓	
班:	個人の判定結果・理由・感想の発表…2分
学級:	班でどのようなディベートになったか紹介 →感想記入



【資料3 ディベートの流れ】

【資料4 グループでのディベートの様子】



【資料5 グループでの共有の様子】

【資料6 全体での共有の様子】

本時の振り返りの場面では、学びのあしあと【資料7】を記入させた。生徒の中には「秀吉が兵農分離や刀狩で豊臣のこともおさえていることが良いと思った」や「歴史の流れをつかむためには、ある時代からどう変化したのかを知る必要があると思った」「私はこれまでの学習と今後の学習内容を比べながら学習していきたい」【資料8】「教科書にとどまらず、インターネットやタブレットを使って調べたので自主的に活動できた」「他の立場の意見を聞いて、なるほどと思ったり、その角度からくるのかというものが多くあったりして自分の考えをより深めることができた。これからも、もっと深く知るために資料やタブレットを活用していきたい」と記述しており、課題に対する学習の成果を実感していた。

令和5年度 第2学年 社会科【歴史的分野】
学びのあしあと
 年【 】組【 】番【 】

①「振り返り」とは？
 学習者自身が学習の節目において、学習した内容や行った活動等について、
 振り返り直しの上で学ぶ活動のこと。

②なぜ、学習の「振り返り」が大切か？
 1. 自分自身の学びや考えを整理することができる。
 2. 学びの軌跡（振り返りの過程）が一目でわかる。
 → 自信の自信につながる！
 「これまで」「いま」「これから」を意識した学習ができる！
 新たな自分の発見、自分自身の興味関心や特徴に気づき、今後に生かす！



単元	タイトル	振り返り
※	オリエンテーション	取り組む単元(少単元の単位と取付)
P114	8 泰平の世の土俗づくり	この単元の理解度・自分の成長度
P118	9 東南アジアに広がる日本町	次の単元や課題が身についたか
P120	10 開港場の窓口	4
P120	10 開港場の窓口	3
P122	11 琉球が琉球と通じる国際関係	2
P124	12 身分ごとの果物暮らし	1

私は、これまでの学習と今後の学習内容と比べながら学習してきたいと思いましたが、なぜなら、歴史の境をわけてみるにはある時点をどう変化したのかと知る必要があると思ったからです。この道で現代と比べるのと同じと思いました。

これまでの学習で様々な文化を知り、それをいろいろな文化と参考にして、良いところを取り入れていて、私も何か考えたり、つくる時には、いろいろなものを参考にして、工夫して取り入れようと思いました。

【資料7 「学びのあしあと」のワークシート】

【資料8 「学びのあしあと」への記述】

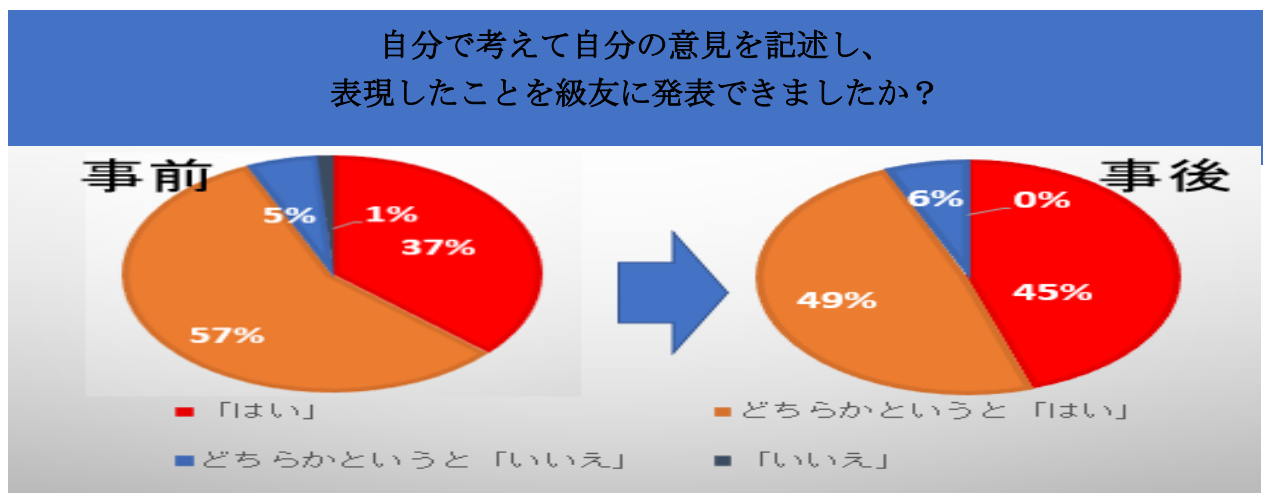
5 実践のまとめ

研究当初は、実際に授業で学んだことを深く追究して考え、表現したり、他者の意見を聴き、自分の意見に反映させたりすることができる生徒は少なかった。そこで、自分で考える機会を作るだけではなく、グループ活動を行い、様々な生徒同士の意見交換をさせた。他者の意見を聞く機会を設けたり、生徒自身が学習の成果を実感できる発表の場として、グループ内でのディベートの場や学級全体で発表し合う場を設けたりした。これらにより、「学びのあしあと」の記述から「最初から最後まで意見は変わらなかったけれど、違う視点同士でディベートすることで新しい考え方や違う見方ができて面白かったです。もっと調べたいと思った」【資料9】

最初から最後まで意見は変わらなかったけれど、ちがう立場同士で討論することで新しい考え方やちがう見方ができて面白かったです。学習を深めることができたかなと思いました。

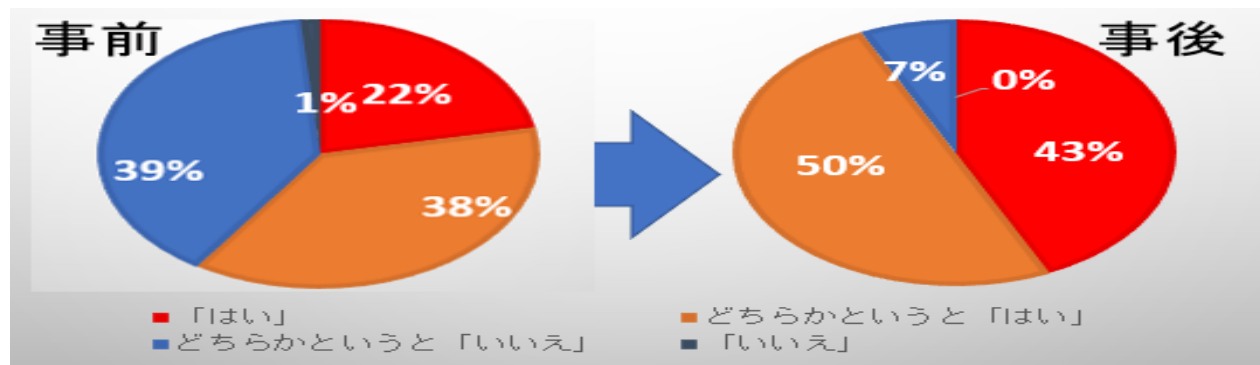
【資料9 生徒の記述】

「教科書にとどまらず、インターネットやタブレットを使って調べることができたので自主的に活動できた」と記述する生徒もおり、少しずつ社会科に対して知的好奇心を高めることができた。



【資料10】

指示された資料に加えて、自分で調べましたか？



【資料 11】

また、社会科を主体的に学んでいきたいと感じる生徒が増えていったように感じられた。さらに、授業実践後の事後アンケートでは、「自分で考えて自分の意見を記述し、表現したことを級友に発表できましたか」という質問に対して、どちらかというところ「はい」と答えた生徒のうち、5人が「はい」となった【資料 10】。また、「指示された資料に加えて、自分で調べましたか」という質問に対して、どちらかというところ「はい」と答えた生徒のうち、4人が「はい」となった【資料 11】。以上のことから、今回の実践で、多くの生徒が授業で学んだことを深く追究して考え、表現したり、他者の意見を聴き、自分の意見に反映させたりすることができたという結果が得られたと言える。これは、学習課題について、タブレットなどを用いながら自分なりにまとめ、話し合う時間をしっかりと設けたことや、グループ内でのディベートを行ったことにより、ディベートに向けた自分の意見に自信をもつことができ、表現できた生徒が増えたためだと考えられる。

一方で、「自分で考えて自分の意見を記述し、表現したことを級友に発表できましたか」という質問に対して、少数の生徒がどちらかというところ「いいえ」と回答しており、授業の内容から知的好奇心が高まりきらなかった生徒がいるという課題が残った。これは異なる視点同士の話合いの際に、その根拠が薄かったため、自分の考えを明確に表現できず、知的好奇心が高まりきらなかったことが原因と考えられる。さらに「学びのあしあと」による学習前後の変化の見取りができず、主体的に学び続けることが十分ではなかった生徒もいた。これは単元の導入段階で単元の予想を書かせ、その予想を意識しながら課題に取り組みしてから「学びのあしあと」の振り返りをするという活動ができていなかったため学んだ知識・技能を活用し主体的に見通しをもち、思考・判断・表現をして活動に取り組み、その活動を振り返ることができていなかったことが原因と考えられる。このことから、今後はグループでの活動においてグループ内で他者の意見の根拠となる箇所の良かったところに付箋紙を貼らせ、その理由を記述させていく。これらにより異なる視点同士による双方向性の活動にしていくことで生徒の知的好奇心を高めていくことができると考える。また、単元の導入段階で単元の予想を書かせ、その予想を意識しながら課題に取り組み、単元の学習後にそれに対して振り返りを書かせていく。これにより学習の前後の変容を生徒自身に実感させていき、主体的な学びを継続させていきたい。

今回の実践の成果と反省を生かし、授業の導入部分を工夫したり、生徒が多面的・多角的に考えられるように資料を増やしたりして、生徒が主体的に学習できる授業づくりを進めていきたい。そして、今後も授業を通して知的好奇心を高め、主体的に学び続けることのできる生徒を増やしていけるよう、努力を続けていきたい。